

学校法人 仙台育英学園 秀光中学校

二〇二六年度 入学者選考試験問題（教科型）

国語

（第一問～第四問）

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- ・この問題冊子は、十四ページあります。
- ・答えはすべて問題の指示にしたがって、解答用紙に記入しなさい。

第一問 次の問いに答えなさい。

問一 次の——線の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 出かける準備をする。
- ② 平易な言葉で話す。
- ③ 安全な道具を用いる。

問二 次の——線のカタカナを漢字になおしなさい。

- ① テキセツな表現をする。
- ② ジシャクを使った実験。
- ③ てきぱきとハタラク。

問三 次の——線は同音異義語です。カタカナを漢字になおしなさい。

- ① どちらが悪いかコウセイに判断する。
- ② 分かりやすいコウセイの文章。

問四 次は対義語になっています。□に当てはまる漢字を書きなさい。

- ① 後退 ↓ □ 進
- ② 寒冷 ↓ □ 暖

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

陽菜と急速に親しくなったきっかけは、中一の体育の創作ダンスだ。体育の先生がきとうに分けた班で一緒になったじゃんけんに負けた咲希が班長になり、次に負けた男子が副班長になった。

班員は男子四人、女子四人の計八人。それぞれの班に分かれて練習し、最後には皆で発表をするように言われた。

咲希の班は、最初からまとまりがなかった。

男子四人は、しゃべったこともない人たちで、その顔に、ダンスなんてやりたくないという気持ちがありありと表れていた。副班長になった男子も、とてもいやそうな顔をして、何もやりたくないふうだった。女子のうち、陽菜を除くふたりも、明らかにやる気がなさそうだった。

じゃんけんに負けて班長になった時、咲希は絶望した。全てを自分におしつけられる気がしたからだ。

最初の話し合いで、音楽を決めた。案の定、だれも案を出してくれなかった。結局、陽菜が提案したK-POPの有名な曲に決まったが、その時は、陽菜がいよいよ案を出してくれただけだろうと咲希は思った。

創作ダンスでは、ダンスを「創作」しなければならない。

咲希にはそんなこと、とてもできない。

副班長になった男子に、

「ふり付け、どうする？」

と、咲希が聞くと、

「市川さんが全部決めていいよ」

と、言われた。

I
「え……」

咲希は困ってしまった。「全部決めていいよ」というが、俺は A から君が全部やって、という意味にしか思えない。

その時、陽菜ならダンスのふり付けができるかもしれないと、直感的に思ったのだが、班員のひとりではない陽菜に頼たよっているのか、分からなかった。

陽菜とは、それまでほとんど話したことがなかった。

そもそも、陽菜と自分は、タイプがちがう。陽菜がいつも一緒にいるのはバスケ部の友達だ。バスケ部員は、体育館での練習以外に外練そとれんもしているからか、みんなうっすら日に焼けていて、名前を呼び捨てにし合っている。スポーツの部活で鍛きたえ上げた手足はまぶしく、彼女かのじょたちのほがらかな笑い声に、咲希はなんだか気おされてしまう。

その集団のど真ん中注1にいる陽菜が、名前通りの陽気な性格だということは、ロボット博物館の一日で分かっていた。

今回の創作ダンスのグループで、陽菜以外の女子ふたりは、初回の話し合いでほとんど意見を出してくれなかった。だから、陽菜が曲を考えてくれて、ほっとした。ダンスのふり付けのことも、相談していいだろうか。

次の体育の授業が近づくにつれて咲希はますます気が重くなってきた。

そんな咲希に救いの手を差しのべてくれたのは、陽菜のほうだった。

前日に、

「明日のダンス、どうする？」

と、聞いてくれたのだ。

「分かんない。どうしよう」

咲希はそう言った。本当に、どうしたらいいのか、①とほう暮ほれていた。

すると陽菜が、

「じゃあ、一緒に考えよっか？」

と言ってくれた。

後から思えば、ほんのささいなひと言②だった。だけどそのひと言に、咲希の心は救われた。つい、涙なみだがこぼれそうになって、あわてて引っこめたほどに。

「ありがとう、清水さん」

咲希が言うと、

「陽菜でいいよ」

と、言われた。そして、

「咲希ちゃんって呼んでいい？」

と、聞いてくれた。

咲希は頬ほおを赤くした。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

「うん。いいよ」

うなずくと、陽菜はさっそく、

「じゃあ、咲希ちゃん。考えたんだけどさー。他の子たち、やる気ないから、うちらふたりでセンターやる？」

と提案した。

「え、センターって、真ん中だよね？」

咲希が確認すると、

「そうだよ」

事もなげに陽菜は言ったが、え、うそ、私が、真ん中……？

咲希はとまどった。でも、ここで自分がいやがると、話が前に進まないと思った。それに、どう考えても、他にセンターポジションを引き受けてくれそうな子などいない。とにかく無事に終えたかった。陽菜と一緒にやってくれるなら、がんばるしかない。

「分かった」

どきどきしたが、心を決めて、咲希はうなずいた。^③

そこから、陽菜と咲希は一緒にインターネットに上がっている動画などから、創作ダンスのヒントになる情報を探した。家に帰ってから、メッセージアプリで情報を共有し、意見を交換した。

じゃんけんで負けただけとはいえ、自分が班長なのに、陽菜にたくさん考えてもらい、咲希は申し訳なく思った。だが、陽菜は全く気にしていないようだった。

そんな陽菜だが、困ったこともあった。

理想が高く、ふり付けをどんどん高度にしようところだ。あれもやりたい、これもやりたいと、難しい動きを盛りこんでしまう。そこに歯止めをかけるのが、咲希の役割になった。

ふり付けだけでなく隊形移動も、陽菜は、どんどん複雑化してしまふ。ふり付けを覚えるだけでも手いっぱいなのに、場所の移動までこまめに強いられたら、みんなの頭がパンクしてしまうだろう。

咲希は勇気を出して、これはちょっと……、と異を唱えた。

陽菜は、自分の意見を否定されても、怒ったりしなかった。やっぱ、無理かー、と残念そうな顔はするが、ちゃんと受け入れてくれる。集団でいると怖いけれど、一対一だと話しやすい子だった。

ようやく全てのふり付けが決まると、陽菜は、

「みんなにちゃんと覚えてもらおう」

と、言った。

「そうだね」

咲希はうなずいたものの、みんなにふり付けを教えることに不安があった。そもそもリーダーシップをとることが苦手なのだった。

案の定、考えてきたふり付けを咲希が見せても、皆、へらへらとうすら笑いを浮かべ、おたがいを見やったりしているだけで、ちゃんと真似をして動いてはくれなかった。女子ふたりももじもじしていて、踊ってくれない。

「あと二回しか練習できないから、がんばろう」

咲希が呼びかけても、皆、あいまいな表情のまま。時間が無駄に流れてゆく。

「そんなに長くないし、すぐ終わるから、これだけ覚えてくれれば……」

④すると陽菜が、

「ちよっとさー!」

と、声を張った。

「このふり付けがいやなら、自分たちで考えてよ!」

大きな声だったが、意地悪な感じではなく、からかうような口ぶりだったので、空気は悪くならなかった。

「ていうか、はずかしがってる人を見るとみんながはずしくなるから、むしろ開き直ってやっちゃってよ!」

にやにやしている男子たちにも、ぴしゃりと言ってくれた。男子たちが、顔を見合わせた。

「発表の日は、もう、踊るしかないんだから、踊るんだよ」

陽菜に言われ、その言葉に、咲希も、そうか、と思った。やるか、やらないか、の選択肢はもうないのだ。体育の課題なのだから。もう、やるとなったらやるしかないのだ。

「うん。みんなで開き直ろう!」

気づいたら、咲希は大きな声でそう言っていた。⑤それは、自分に対する声かけでもあった。

咲希のその言葉は、やる気のない女子ふたりにも響いたよ

うで、

「そうだね」

「やるしかないね」

と、彼女たちが言うのが聞こえて、胸が熱くなった。Ⅳ

「でも、無理なんだけど」

まだ言い訳している男子もいたが、

「無理でも、やるんだよ!」

陽菜にどやされた。

その日から、「開き直ろ」が、咲希たちの班の合い言葉になった。

皆で開き直れば、笑顔も出てくる。陽菜が、^{注2}屈託なく笑ってくれるので、皆も自然と笑顔になる。

女子四人は早い段階で、完全に開き直った。咲希も腹をくくり、センターポジションで堂々と踊った。皆が開き直って踊ってくれたら、ダンスは楽しいものになった。

男子は、といえ、さすがにすぐには開き直れないようだったが、少しずつ変化してきた。本当に踊れない男子一名を除いて、残り三人の男子もちゃんと踊ってくれるようになった。

本当に踊れない男子一名は、本当に踊れないようだったので、彼が前列に立つ時は全体をシンプルな動きにし、複雑なふり付けの時には彼には後列に行ってもらうなど、細かい工夫をこらした。本当に踊れないその一名も、見よう見まね

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

で一生懸命に体を動かしてくれて、最高に開き直ってくれていた。

そして、当日の発表会。

咲希たちの班は、みんな、「開き直ろ」を合い言葉に、思う存分踊った。

最初こそ、そのさまを見て笑う子や、ひやかしの声をあげる子もいたが、途中からみんなの目が変わった。

まじめに開き直っていることが、伝わったのだ。

曲の盛り上がりには達すると、自然と手拍子がわきあがった。K-POPの有名な曲だったので、見ている子たちの中にも、歌ってくれる子や、体を動かして一緒にリズムを取ってくれる子が現れた。咲希たちは開き直って踊り切り、最後には盛大な拍手をもらえたのだ。

「さっちゃん、すごかった！」

「めっちゃ、かっこよかった！」

音楽部の友達が咲希をほめてくれた。

先生からも、

「うまくまとまっていたね。しっかり練習したんだね」と言ってもらえた。

班長になった時、あんなに苦しく、しんどかったのがうそのように、咲希はダンスが楽しくなっていて、このメンバーで踊るのが最後だというのを、

C だった。それは全て、陽菜という新しい友達のおかげだった。

（朝比奈あすか「いつか、あの博物館で。

アンドロイドと不気味の谷」

（問題の都合により本文の一部を変更しています。）

注1 ロボット博物館の一日……中学一年生の校外学習で訪問し、

咲希と陽菜は同じ班で一緒に行動した。

注2 屈託なく……明るくさっぱりした様子。

問一 A に入る言葉を、これより前の本文中からひら

がな六字で書きぬきなさい。

問二 線①「途方に暮れていた」のはなぜですか。そ

の理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 全てのことが他人任せで、何も手伝おうとしない副班長の男子が腹立たしかったから。

イ 自分一人でふり付けを考え始めたが、まだ曲の半分までしかできていなくて、あせっていたから。

ウ 授業の直前まで何も決まらず、他の班員に頼ることもできなくて困っていたから。

エ あまり自分の意見を言えない性格なのに、班長の役割が務まるのかと不安だったから。

問三 線②「つい、涙がこぼれそうになって」とありますが、このときの「咲希」の気持ちを説明したものと

してふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一人でなやんでいたところ、陽菜から声をかけてくれてほっとしている。

イ 班長として頼りない姿を見せてしまい、がっかりさせたことに落ちこんでいる。

問四 線③「咲希はうなずいた」とありますが、この

ウ だれにも頼れそうになく困っていたが、相談できる相手が見つかってうれしく思っている。

エ 自分ひとりではふり付けを考えられないが、陽菜に協力してもらえらることを心強く感じている。

ときの「咲希」の気持ちを説明したものととして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 真ん中で踊るのはいやだったが、陽菜の意見に合わせるしかないときらめている。

イ センターで踊ってくれる人がいないので、陽菜と一緒にがんばろうと覚悟を決めている。

ウ ダンスはへただが、陽菜が教えてくれれば踊れるかもしれないと期待している。

エ 今は練習が足りないが、陽菜のように自信をもって踊ろうと意気こんでいる。

問五

——線④「すると陽菜が、『ちょっとさー!』と、声を張った。」とありますが、このときの「陽菜」の様子について説明したものとしてふさわしくないものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気持ちを切りかえて、堂々と踊ったほうがはずかしいと呼びかけている。

イ やるかやらないかではなく、発表がある以上は踊るしかないとうったえている。

ウ 声は大きいが、からかうような口ぶりで、空気を悪くしないようにしている。

エ ちゃんと動こうとしない男子たちに対し、強い口調でせめたてている。

問六

——線⑤「それは、自分に対する声かけでもあった」とありますが、「それ」が指している内容を本文中から五字で書きぬきなさい。

問七

□ B・Cに当てはまる言葉として最もふさわしいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 幸せ

イ 苦痛

ウ 自信

エ 残念

問八

——線Ⅰ～Ⅳの「咲希」について、その言動の理由を述べたものとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 咲希が「え……」と言ったのは、ダンスのふり付けが得意な副班長に相談したのに、断られてしまったから。

イ 咲希が「頬を赤くした」のは、陽菜から名前で呼ばれ、急になれなれしくしてきたことに対していらしたから。

ウ 咲希が「これはちょっと……」と言ったのは、ダンスの動きが複雑になると、他の班員がついていけなくなると考えたから。

エ 咲希の「胸が熱くなった」のは、やる気のなかった女子たちが、発表の直前まで言い訳をしていることにあきれたから。

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自分がわからないという若者が増えている背景として、友だちづきあいの質が変わってきたということがある。

率直な対話がしにくい感じになっている。おたがいに相手に対して思うことや感じることをそのままぶつけることがしにくい。うっかりしたことを言って相手が傷ついたら気まずいといった思いが強すぎて、率直な物言いができない。

たとえば、親の態度や先生の態度、あるいは友だちの態度に腹が立って、そのことを嘆いたとき、「えー、それはひどいね」「それはないよね、イラッとくるね」のように、目の前の相手の反応を肯定し **A** するばかりで、「どうしてそんなこと言うんだろうね。何か事情があったんじゃないの」「それはちょっとちがうんじゃないか」「そんなにムキにならなくてもいいんじゃない。向こうはそんなつもりで言っただんじゃないかもしれない」のように、視点の **B** をうながす反応が少ない。

これでは上辺の反応しか返ってこないため、自分に対する気づきが得られにくい。勘^{かん}ちがいをしていたら、ずっと勘ちがいのままだ。

かつて友だちというのは気をつかわなくてもよい相手だったはずなのだが、今の多くの若者は友だちにも親友にも非常に気をつかうという。どうでもいい相手なら気をつかわないけど、親しいからこそ気をつかうのだという。

一人で話しに来るときは、落ち着いた雰囲気^{ふんいき}で、どこなく暗い感じもただよわせつつまじめな話をし、ときに親に対する不満や友だち関係のなやみを語ったり、将来に対する不安や自分自身に対するいらだちを語ったりする。ところが、仲の良いグループで話しに来るときは、打って変わって明るい調子で軽口をたたく。自分のドジ話や友だちをネタにした話で盛り上がり、やたらテンションが高い。 **I** お笑いタレントを中心に展開するバラエティ番組のトークのようだ。笑いをとることばかりを考えて発言する。

そんなことが多いため、たまたま一人で話しに来たときに、友だちにはなやみとか不安とか話さないのかときくと、「そんなこと言えませんか。そんな話題出したら、みんな困っちゃうじゃないですか」「そんなこと言ったら引かれるかもしれないし、そうしたら傷つくし……無理ですよ」などと、友だちに内面的なことを言いにくい理由を口々に語る。

これではおたがいに自分の内面をふり返り、まだ言葉になっていない思いをくみ上げながら自分の気持ちを整理するという語りになっていかない。

友だちづきあいでも、ウケねらいのセリフが飛びかうばかりで、心の中のモヤモヤした思いを言語化するような対話がしにくくなっている。近ごろカウンセリングが必要とされるようになってきたのは、日常生活の中に^①気づきを得られるような語りの場が減ってきたからと言える。

おたがいに相手を映し出すような人間関係。それは、ウケ

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

ねらいの言葉を発するだけでなく、相手について思うことを率直に口にすることができるような関係。ハイテンションで盛り上がるだけでなく、ときに自分の内面をふり返りながら、落ち着いて語り合えるような関係。そんなかわりの中でこそ、新たな自己への気づきが得られ、自分らしさが見えてくる。

「どうしたんだ、最近ちょっと変だぞ」「そんなことでイラッとくるなんて、お前らしくないぞ」などといった友だちからの問いかけにハッとすると。「そういえば、どうしたんだろ。何だかイライラしてる」と気づき、自分の内面をふり返りながら友だちに説明しようとする。そのときにモヤモヤした思いが言語化され、自分がなんでイライラしていたのかがつかめる。

友だちと話していて、「なんでそんなふうに思うんだろ。私とはずいぶんちがうなあ」と感受性のちがいに気づかされるとき、自分は物事の受け止め方がとても楽観的なのだということがわかり、そのためいちいちパニックになったりしないで、たいてい前向きでいられるのだと納得する。

ところが、なかなか率直に語り合える雰囲気なくなってきた。

ある学生は、学校で仲間グループで話すときは、いつも楽しく笑えるネタで盛り上がるばかりで、今気になっていることをなかなか話せる雰囲気じゃないため、ハイテンションで空騒ぎを楽しんだあと、家に帰って「私、いったい何してるんだろ」と自己嫌悪におちいり、ついブログにドロドロし

た気持ちをはき出したり、ツイッターで暗いつぶやきや攻撃的なつぶやきを発しているという。そんな自分がまたいやになる。

ネットでのコミュニケーションが中心になると、対面で語り合う機会がますます乏しくなる。学校で一緒にいる友だちと、家に帰ってからでもフェイスブックやラインでやりとりしているという学生も少なくない。でも、ほとんどが短い文のチャットボールで、言いたいことを一方的に発信するだけ。感覚的な言葉を発したり、単純な情報交換や状況報告をするだけで、内面をふり返りながらモヤモヤした思いを言葉ですくい上げるような対話になりにくい。

そのようなやりとりは、はたして気づきをうながす対話になっているだろうか。文字言語での情報交換も大切なのだろうし、たえずやりとりすることで「いつも一緒にいる」と感じられ、さびしさを紛らすことができるのだろうけど、友だちとのかわり方を少し見直してみると、自分らしさというのがもっと見えてくるのではないだろうか。

自分にはいろんな面があるものだ。鈍感なところがあるかと思えば、やたら過敏で気にしすぎるところもある。心配性で臆病なくせに、意外に大胆なところもあったりする。親切さを発揮することもあるのだが、人を冷淡につき放して見ていることもある。みんなと一緒ににぎやかにはしゃぐこともあるけど、ひとり静かにしていることもある。いろんな面があって、何ともつかみどころがない。それが自分だ。

自己紹介をしなければならぬときなど、どんなふうにか

したらよいかと迷いなやむものだ。

自己紹介なんて、人の紹介をするわけではなく、自分自身のことを言えたいのだから、簡単にできそうなものだが、考えれば考えるほど、自分の特徴がどこにあるのかがわからなくなる。

さらには、自分のどんな面をとくに紹介したらよいかわからずやむ。自分のどこを取り出すかによって、さまざまな自己像を組み立てて示すことができるからだ。だからこそ、自分のどのあたりに焦点をしばったら、その場に最もふさわしい自己紹介になるんだろうと迷うことになる。

自己紹介をした後も、何となく落ち着かない。これでよかったんだろうか、もうちょっとちがう自己紹介をした方がよかったんじゃないかといった思いがかけめぐる。ほんとうの自分を出していないような、偽ってしまったような不安全感にさいなまれることもある。

「学校の友だちといるときの自分と、家にいるときの自分とは、まるで別人みたいになりがちです。二重人格なんじゃないかって気になって……」

「クラスの仲間の前にいる自分と、サークルの仲間の前にいる自分が、まったく雰囲気がちがってて、どっちがほんとうの自分かわからなくなることがあるんです。これって二重人格なんでしょうか……」

大学でカウンセラーをしていたころ、そのような相談を受けることがあった。「自分らしさって何だろう？」という感

じで自分をふり返るようになって、場面によってちがう自分になっていることに気づく。青年期になるとだれもが経験することのはずだ。

べつに病的な意味での二重人格なわけではない。ぼくたちは、相手によってちがう自分を出している。④だれもが人格の多重性を生きているのだ。

レストランで家族と一緒に食事しているとき、すぐ後ろのテーブルで学校のクラスの仲間たちがお茶しているのに気づくと、何だか気はすかしい感じがする。それは、ふだん学校で見せていない自分を見られたような気がするからだ。

好きな異性と喫茶店でしゃべっているときに、親と親しい近所のおばさんたちが入ってくると、なぜか話しくく、ぎこちない感じになる。それは、好きな異性としゃべっていると、ふだん家族の前で出していない自分がつい出てしまうからだ。

このようにだれもが相手によってちがう自分を出している。意識してちがう自分を出しているわけではない。だれと一緒にいるかによって、ちがう自分ごく自然に引き出されるのだ。こんな自分を出すのは気まずいなど感じることもある。相手によって出しやすい自分と出しにくい自分がある。何となくそれを察知して、相手にふさわしい自分、その場にふさわしい自分が引き出される。

⑤場面そのものに、こちらの自分の出し方を規定する力があるといった感じだ。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

ここから言えるのは、ふだんちがう場に身を置くことによって、いつもとちがった自分が引き出されることが期待できるとのことだ。ちがうグループの子と話してみる。気になるサークルやイベントに思い切って参加してみる。新しいアルバイトにチャレンジしてみる。そこに新たな自分が顔を出してくることもある。

いつも人間関係の中にいるかぎり、その仲間たちの視線を裏切れない。視線の拘束力こうそくは非常に強く、ちょっとでもいつもとちがう自分が出たりすれば、何だかちがうなと感じた周囲の仲間たちからいぶかしげな目で見られる。

このように身近にかかわっている人たちの視線を裏切るのは非常に難しい。ちがう自分も見みたいと思うとき、自分の殻を破りたい衝動しょうどうにかられるとき、自分がいかに周囲の視線にがんじがらめにしばられているかに気づく。

だからこそ、新たな自分を見てみたいと思うなら、習慣化したかかわりの世界から思い切って飛び出してみることだ。

（榎本博明「〈自分らしさ〉って何だろう？」）

（問題の都合により本文の一部を変更しています。）

問一

□ A・Bに当てはまる言葉として最もふさわしいものを次のア～エから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 共感 イ 反論 ウ 転換かん エ 共有

問二

□ I に当てはまる最もふさわしい言葉をひらがな三字で答えなさい。また、この一文に使われている表現のくふうは何ですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 倒置とうち イ 反復 ウ 対句たいく エ 比ゆ

問三

—— 線①「気づきを得られるような語り」とはどのような「語り」ですか。具体的に説明している部分を「語り」に続くように本文中から五十一字でぬき出し、最初と最後の五字を書きぬきなさい。なお、句読点も字数にふくめます。

問四

—— 線②「自分らしさというのがもつと見えてくる」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア おたがいに相手について思うことを率直に言葉にすること、ときに自分の内面をふり返り、新たな自己に気づくことができるということ。

イ 他人とは物事の受け止め方にちがいがあると気づくことで、社会について知ることができ、大人へと成長するということ。

ウ 友だちに自分のことを話しているうちに自分の内面や感情を整理することができ、いつも樂觀的でいられるということ。

エ 友だちと感覚が似ていると確認し合うことで安心感が得られるので、落ち着いた生活を送ることができるといふこと。

問五

——線③「不全感にさいなまれる」のはなぜですか。

その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自己紹介は、自分のことを紹介するだけなので簡単だから。

イ 自分をよく見せたいと思うと、本当の自分とはちがうことを話してしまうから。

ウ 自分にはいろいろな面があり、自己紹介で自分のすべてを紹介できることはないから。

エ 自己紹介をする時はきん張してしまうので、思いもよらないことを話してしまうから。

問六

——線④「だれもが人格の多重性を生きている」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 人は相手のことが好きかきらいかで態度を変えてしまうものだということ。

イ 人は相手や場面によって無意識にちがう自分を出しているものだということ。

ウ 人は場所によってさまざまな感情をもつのが当たり前だということ。

エ 人は他者と接する中で自分らしさが分からなくなってしまうものだということ。

問七

——線⑤「場面そのものに、こちらの自分の出し方を規定する力がある」ことで、どのようなことが期待できると筆者は述べていますか。それを説明した次の文の□に当てはまる言葉を本文中から五字で書きぬきなさい。

いつもとちがう人間関係の中に入ったり、いつもとちがう場に参加したりすることで□が引き出されるかもしれないと期待できる。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第四問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

とある動物の国。王様になりたいと思った金持ちの「金のライオン」が、誠実で人気のある「銀のライオン」をおとしめるウソを流す。ねらい通り世間に悪評は広まり、金のライオンは王座を手に入れる。

I

、自分勝手なふるまいはやがて国を滅亡^{めつぼう}へと導く――。

絵本「二番目の悪者」(小さい書房)が二〇一四年の出版以降、売れ続けている。一五刷を重ねて今月、累計^{るいけい}八万部となった。

市民が軽い気持ちでうわさを伝え合った結果、取り返しのつかない事態を招くという寓話^{注1ぐうわ}である。真偽^{注2しんぎ}不明のソーシャルメディア情報^{えい きまう}が大きな影響力を持つようになった昨今の社会と重なる。①うそは、向こうから巧妙^{せうみょう}にやってくるが、真実は、自らがし求めなければ見つけれない②全てを見通していた「雲」のつぶやく言葉が重い。

ただ、やっかいなのは、自ら真実を探そうとするとウソにからめとられる危険も増すという現実だ。③ネット情報の真偽を検さくで確かめようとした人は、誤情報を信じる確率が高くなるという実験結果が二三年に英科学誌ネイチャーに掲載された。検さくで得られる情報の質が低いことが原因とみられるという。

検さくに応じてSNSは似たようなコンテンツ^③を次々にすすめてくる。自分の見つけた答えへの確信はII。だが、

それはプラットフォーム^{きぎょう}企業が利用者をくぎ付けにするための戦略であり、事実かどうかは別問題だ。

信頼^{しんらい}できる情報源とは何か。じっくり考えることが「二番目の悪者」にならないための第一歩かもしれない。

(毎日新聞「余録」二〇二五年四月十四日掲載)

注1 寓話……行動や考え方を示す教訓的な内容を記したたとえ話。

注2 真偽不明……本当のことかうそのことか分からないということ。

問一

I に当てはまる語として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア だが
イ つまり
ウ および
エ または

問二 ——— 線①「うそは、向こうから巧妙にやってくるが、

真実は、自らがし求めなければ見つけれない」とあり
ますが、この言葉を言ったのはだれですか。最もふさわ
しいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 金のライオン
- イ 銀のライオン
- ウ 市民
- エ 雲

問三 ——— 線②「ネット情報の真偽を検さくで確かめよう

とした人は、誤情報を信じる確率が高くなる」のはなぜ
ですか。その理由を「くから。」に続くように本文中か
ら十五字で書きぬきなさい。

問四 ——— 線③「コンテンツ」の意味としてふさわしいも

のを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 内容
- イ 外見
- ウ 正解
- エ 提供

問五 Ⅱ に入る言葉として最もふさわしいものを次の

ア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 遠のく
- イ 深まる
- ウ 集まる
- エ 落ちる

問六 現代社会ではさまざまなものから情報を得ることがで

きますが、あなたはどのような情報を利用する時にどの
ようなことに気をつけますか。気をつけなければならな
い理由もあわせて書きなさい。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

